

回 覧



値小だより

島から日本一楽しい学校を
～子どもが未来に誇れる学校～

平成28年7月5日 第7号

校長 酒井 元治

いのちを考える週間 (教育週間)

先週は教育週間で多くの皆様にご来校いただき、温かい目で子どもたちを見守っていただきました。ありがとうございました。

この教育週間は平成15年7月1日に起きた、いわゆる「俊ちゃん事件」後に始まりました。加害者は中学生。

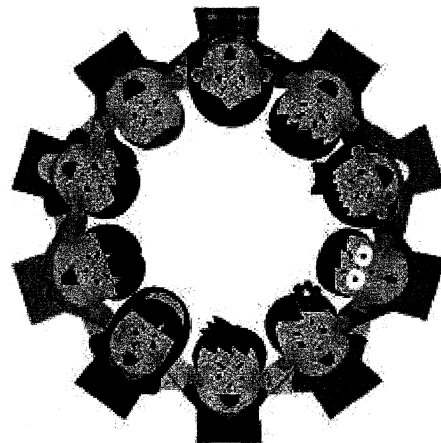
その翌年、平成16年6月1日、佐世保市同級生殺害事件が起きました。さらには、同市で平成26年7月26日、女子高生殺害事件が起こり、日本中に衝撃が走りました。

それぞれの子どもたちには、その後様々な鑑定等が行われ、発達障害の診断が下されていますが、それぞれの事件の背景や要因は複雑に絡んでおり、加害少年・少女の持つ特性だけが引き起こしたと考えるのはあまりに安易すぎる解釈でしょう。関わってきた大人たちもこのような重大事件を起こすように関わってきたではありません。もちろん、学校もこの子たちの健やかな成長を願っていたはずで

す。しかし、被害者の尊い命が奪われたのは事実。どこかでだれかの手が加害者の子どもたちの心に届いていたら、だれか頼ることができる人間がいたら、と悔やまれるところです。

生きとし生けるもののいのち、とりわけ我々人間、子どもたち同士のコミュニケーションの在り方、子どもと大人の関わり、様々なことについて考え、子どもたちと向き合う、また、日頃の向き合い方を見直す週間です。

この週間の始めに朝会で私は次の作文を画像とオルゴールのBGMとともに紹介しました。



78円の命

第41回豊橋市小中学生話し方大会最優秀賞作品

小学6年生・谷山千華さん

近所に捨てネコがいる。そのネコは目がくりっとしていて、しっぽがくるっと曲がっている。かわいい声をあげていつも私についてくる。真っ黒なネコだったので、魔女の宅急便から『キキ』と勝手に名付けてかわいがった。人なつっこい性格からいつの間にか近所の人気者になっていった。

子ネコだったキキも2年たった頃にうれしい出来事があった。赤ちゃんを産んだのだ。でもキキは捨てネコだったので、行き場所のない子ネコたちを近所のAさんが預かってくれた。毎日のように子ネコを見に行き、まるで自分の飼いネコのようにかわいがった。

ある日、突然子ネコの姿が見えなくなった。そこでAさんに尋ねてみると、「〇〇センターに連れて行ったよ」と、うつむきながら言った。私はうまく聞き取れず、何を言っているか分からなかったが、たぶん新しい飼い主が見つかる所に連れて行って幸せに暮らせるんだなと思った。

次の日、学校でこのことを友達に話したら「保健所だろ？それ殺されちゃうよ」といった。私はむきになって言い返した。「そんなはずない。絶対幸せになってるよ」殺されちゃうという言葉がみように心にひっかかり、授業中も保健所のこと頭がいっぱいだった。走って家に帰ると、急いでパソコンの前に座った。『保健所』で検索するとそこには想像もできないざんこくなことがたくさんあった。飼い主から見捨てられた動物は日付ごとにおりに入れられ、そこで3日の間、飼い主をひたすら待ち続けるのだ。そして飼い主が見つからなかった時には、死が待っている。10匹単位で小さな穴に押し込められ、二酸化炭素が送り込まれる。数分もがき、苦しみ、死んだ後はごみのようにすぐに焼かれてしまうのだ。動物の処分1匹につき78円。動物の命の価値がたったの78円でしかないように思えて胸が張りさけそうになった。そして、とても怖くなった。残念ながら、友達の話は本当だった。調べなければ良かったと後悔した。現実には年間20万匹以上の動物がこんなにも悲しい運命にあることを知り、さらに大きなショックを受けた。動物とはいえ、人間がかけがえのない命を勝手にうばってしまっても



いいだろうか。もちろん人間にも、どうしても動物を育てられない理由があるのは分かっている。一体どうすればいいのか分からなくなった。

キキがずっと鳴いている。大きな声で鳴いている。いなくなった赤ちゃんを探しているのだろうか。鳴き叫ぶその声を聞くたびに、パソコンで見た映像が頭に浮かび、いてもたってもいられなくなり眠れない夜が続いた。キキのかわいい声もいつの間にかガラガラ声に変わり、切なくなった。言葉が分かるなら話をしたい。私はキキをぎゅっと抱きしめた。



最近キキの姿を見かけなくなった。もしかしてキキも保健所に連れて行かれたのかと一瞬ひやっとした。それから1週間後、おなかに包帯を巻いたキキを見かけた。Aさんがこれから赤ちゃんを産めない体に手術してくれたのだ。私は心から感謝した。この先キキも赤ちゃんも捨てられずにすむという安心した気持ちと、Aさん家のネコになってしまったんだというさみしい気持ちとで複雑だった。正直、とてもうらやましかった。

命を守るのは私が考えるほど簡単なことではない。かわいいと思うだけでは動物は育てられない。生き物を飼うということは1つの命にきちんと責任を持つことだ。おもちゃのように捨ててはいけぬ。だから、ちゃんと最期まで育ててやれるという自信がなければ飼ってはいけぬことを学んだ。

今も近所には何匹かの捨てネコがいる。
私はこのネコたちをかわいがってもいいのだろうか、ずっと悩んでいる。

この作文を紹介した後、動物だって、草花だって、そして人間だって尊い命を持っていること、先日私の叔母の法事でお坊さんが話されたことを伝えました。その内容はこのお坊さんが法事当日遅刻していらっしやいました。理由は、生後80日になる赤ん坊を亡くした若い夫婦のところにお経を上げに行ったところ、お母さんが赤ん坊の亡骸の前から動こうとせず待つのに時間がかかったとのこと。当然のことでしょう。この赤ん坊は80日でその命を絶っているのですから。1年生(7歳)を例に挙げ、ここまでに2555日生きていること、命はゲームと違ってリセットできないこと、古今東西、人は命についてお祈りや研究を重ねたもののいわゆる「永遠の命」や「命がよみがえる」ということはないことを話し、「この尊い命を考える週間です。」と締めくくりました。

こちらは私が6年生の道徳の授業をした資料です。平成元年に心臓の病気のため14歳でこの世を去った柳橋佐江子さんがお母さんに宛てた手紙(一部)です。(全文やその後お母さんが天国の佐江子さんに宛てた手紙ご希望の方は小学校までお申し付けください。)

お母さんへ

お母さん、いよいよ3日後には手術だね。手術を目の前にして、お母さんに言いたいことは、ただひとつ。「14年間、私を育ててくれてありがとう」いつもお風呂から出て、お母さんと一緒に飲むアイス・コーヒーは、この世で一番おいしいコーヒーです。いろんなことをしゃべって、ゲラゲラ笑い合っ……。一日も早く退院して、また一緒にコーヒーを飲みたいな。

辛くて、涙が止まらない時、黙って私の手を握ってくれるお母さんの手は、とってもあったかい。辛い事が、雪のように、どんどん溶けてゆくみたい。14歳になって、甘ったれだと思われるかもしれないけれど、私はお母さんのあったかい手が大好きです。「おやすみ」と言い合っ、布団に入る時の、お母さんの口癖。「いい夢見なさい」「別に、好きで悪い夢を見るわけじゃないのに……。いい夢なんて、見ようと思って見られるものじゃない。変なの」ってずっと思っていた。でも、入院する前の晩、ハッと思ったの。「いい夢見なさい」は、「悪い事ばかり考えて、メソメソしないで、いい方へ、いい方へと考えなさい」「明日もいい事があるといいね」っていう事だったんだね。今、それに気付いて、私も、将来子供が生まれたら、夜、「いい夢見なさい」と言ってあげたいと思います。

「お母さんなんか、私の気持ち、全然わかってない！」そう思ったことが、何度あったらう。でも、ほんとうはお母さん、私の気持ち分かりすぎるくらい、分かっているんだよね。お母さんも、私と同じくらいの辛さを味わっている、手術の日が決まってから、何となく落ち着かず、私に、「がんばれ！」を連発していたお母さんを見て、はっきりそう思いました。私が辛くて、口惜しくて、泣きたくなる時お母さんもやっぱり、涙を流すまいと頑張っている。私が手術を目の前にして、ちよっぴりドキドキしている時、お母さんは、私以上に頑張っているんだよね。私が辛い時は、お母さんも同じように辛い。だから私は、「手術、がんばってくるからね」ではなくて、「手術、頑張ろうね」と言いたいのです。私の手術、15時間ぐらいかかるって聞いたけど、私は大丈夫だからね、この手術が済めば、私もみんなと同じ、健康な体になれるんだもん。私もすっかり頑張るから、お母さんも頑張っね。最後にもう一度。14年間、笑顔と根性で私を育ててくれて、本当にありがとう。今、365×14回分の「ありがとう」を言いたい気分です。これからも、もうしばらくは、お世話になるだろうけど、よろしくね。その代わりに、お母さんがおばあちゃんになったらたっぷりめんどう見るからね！手術、がんばろうね。

佐江子

この手紙は佐江子さんの希望でPHPという雑誌に投稿され掲載されました。

回 覧



値小だより

島から日本一楽しい学校を
～子どもが未来に誇れる学校～

平成28年7月8日 第9号

校長 酒井 元治

中3のお兄ちゃん、お姉ちゃん、ありがとう



6月27日(月)小学校3年生と中学校3年生の合同で「アジかまぼこづくり」を行いました。中3と小3の混じったグループでアジを3枚におろし、すり身をつくり、味付けをして、かまぼこに仕上げるといふものです。ご指導は、「ふるさとの味、かーちゃんの味」つたえよ一会のみなさんと産業振興課のみなさんです。あざやかな包丁さばきで模範を見せていただいた後、いざ、

調理開始。中3の生徒がはらわたを出して、ぜいごをとって、小3が洗ったり、皮をはいたり…。

中3のお兄ちゃん、お姉ちゃんのさばき方をあこがれの目で見ながら、頼りになる姿に「自分たちもこうなりたいな。」という思いを感じ取ることができました。まさに、成長することへの希望とあこがれを持つことができた時間でした。

小3のお礼の手紙を2通紹介します。

村田 康成 兄ちゃんへ

ペアになったときからやさしくしてくれてありがとうございます。私はとてもきんちょうしました。でも、やさしくしてくれたので、きんちょうがなくなりました。ありがとうございます。アジかまぼこの絵本も手つだってくれたおかげで絵本ができました。康成兄ちゃんみたいに私は友だちにやさしくしたり低学年にやさしくしたりするように努力します。中学3年生になったら、康成兄ちゃんみたいにアジを上手にさばきたいです。

3年 福崎 真奈

崎山 富公衛 姉ちゃんへ

アジかまぼこづくりのときは、教えてくれてありがとうございました。富公衛姉ちゃんとお勉強できて、とても楽しかったです。顔合わせのとき少しどきどきしました。クイズのときいっしょにがんばりました。そういう富公衛姉ちゃんを見習います。本番の日とってもきんちょうしました。でも、富公衛姉ちゃんを見たら、少しほっとしました。高校生になってもがんばってください。私は富公衛姉ちゃんをおうえんしています。

3年 戎本 海羽



また、毎年ご指導いただく産業振興課と「ふるさとの味・かーちゃんの味」つたえよ一会の皆様には、わいわい楽しく教えていただいて感謝の限りです。

ここで、子どもたちに身につけさせたいのは礼儀です。普段触れあうこともあるかもしれない大人の方でも、こうやって教えに来てくださる方にどう接し、どんな言葉遣いをするのか、つい「なれあい」になりそうなところをしっかりと考え

させる「道徳の実践の場」です。学校外からいろいろな方をお招きしてご指導いただくことには次のような「ねらい」があります。

- ・多くの人と触れあうことによって人のぬくもり、温かさを感じ、この島で守られ育てられている実感をもたせること。
- ・専門家を招くことによって、得手・不得手のある職員でも指導ができ、それぞれの取組を継続させることができること。
- ・「大人の卵」として目上の人に対する態度、尊敬する心を養い、子どもたちが将来どこに行っても通用する礼儀とコミュニケーション力を培うこと。

そのためのいろいろな取組だと思っています。どうぞ、失礼なことや気づかれることがあれば、その場で子どもたちをご指導いただいたり、職員に伝えたりしてください。



笑いの芸能～寄席～



6月28日(火) 青少年劇場として「笑いの芸能～寄席～」が開催されました。この青少年劇場、他の地区ではこう毎年は来ません。5年に1度程度。離島ということもあって、毎年開催していただいているのでしょう。本物の芸術を見るすばらしい機会です。

さて、当日は噺家お二人と大道芸の方がお一人お越しくださいました。まず、寄席太鼓の説明と実演から。寄席太鼓には音に意味があって最初は「ド～ン、ド～ン、ドントコイ！ドントコイ！」と打ち、寄席が終わってからは、「デテケ！デテケ！」と音を鳴らすのだとか。子どもたちにも体験させてくださって、次は小話です。落語はもちろん一人で何人かの役をやるわけですから、人(役)を代えるときには顔の向きを

違えて演じるのだそうです。お手本の後、5年生2人が実演。なかなか、難しいところをがんばって手振りを加えながらやることができました。その後、3人の方による本格的な寄席が始まりました。寄席の歴史は江戸時代初期にまでさかのぼりますが、磨き上げられたすばらしい「技」に見入ってしまいました。

できるなら、小値賀の子どもたちが堂々と人前で、小話の一つでもできるようにしてみたいなあという思いがふつふつとわき上がってきました。

ここで、「小話を一つ」(これは私がはじめの挨拶で引用した小話です。)

昔、浅草の観音様に入った泥棒がございまして、賽銭箱を風呂敷でくるみますと、これをしょいまして、野郎、裏から逃げればいいものを、表からどうどうと逃げようとしてまして、ところが、表には門番の仁王様がいらっしゃいますから、逃がす訳はございませぬ。この野郎ふてえ野郎だ、なんてんで、泥棒の襟首をつかまえて、目よりも高くつり上げると、そのまま地面へ叩きつけまして、泥棒が四つん這いになると、上から、あの何文あるか分からないような大きな足で、ぐぐぐぐと踏み付けます、ってえと、かの泥棒、下腹へ力を入れて力みましたから、たまりませぬ、さっそく大きなおならをぶっ。

仁王様「むむむむむ、くせえーもの。」 泥棒「はーあ、仁王かあ(臭うかあ)。」

生活のきまり(案)に御意見ありがとうございました

先日の授業参観後の懇談会の折、地域や家庭での過ごし方について「小値賀っ子 家庭生活のきまり(案)」について、提案したところ、いろいろな御意見をいただきありがとうございました。「御意見が何も無い。」のではなくて、多方面から御意見をいただいてこそその学校と家庭の連携です。もちろんご要望通りにはいかないところもありますが、今後とも様々な御意見をいただきながら学校運営を進めていきたいと思っております。よろしくお願ひします。そこで、御意見があったいくつかについて、学校としての考え方をお伝えします。

1 自転車について

様々な御意見をいただき、学校でも検討したところ、その結果、次のように決めました

- ・低学年(1・2年)については、案通り「家の近くの広いところで乗る。」でお願いしたいと思います。危険を伴う低学年の自転車に学校がOKを出すわけにはいかないという判断です。
- ・中学年(3・4年)については、ご家庭でのご判断により範囲を決める。お子さんの運転技術を見てご家族で話し合い、ご判断ください。

2 「休みの日は10時前には遊びの目的で友だちの家を訪問しない。」について

学校からの指導としては原則このままでいきたいと思っております。しかし、いろいろなご都合で例外はあると思っております。

3 尼忠東店の使い方について

明確なルールが知りたいということで実際に足を運んでみました。そして、管理をしている教育委員会に尋ねたところ以下のようなことです。

- ・飲食は基本ダメ。会合等での飲み物の持参は可。
- ・ゲームの持ち込みはダメ。勉強や読書などは可。

ちょうど私が尼忠東店を訪問した時に10名ほどのご婦人が語らいあっていらっしゃいました。子どもたちの利用について尋ねてみると、「だいたいはお利口さんにしとるですよ。でも、この前騒ぎよったけん、ちょっと叱った。」とのお話。さすが小値賀のご婦人たち！大好きです、そのおせっかい。「子どもは小値賀の宝」でも、磨かんと宝は光らん！今後ともよろしくお願ひします。

